上田市営球場にまつわる思い出や出来事（その１）

田村栄治（１組、野球部 OB、捕手）

「昭和二十九年夏、県高校選抜大会上田大会 光澤投手を持つ飯田長姫(春全国優勝)を五対三と破り優勝」と裏に書かれた写真が何故か自宅から出てきたので添付します。

この写真には昭和32年、初めて上田（松尾）高校が甲子園に出場した時の木村頌一監督(前列左から３人目)が映っています。この時の対戦相手である光澤毅投手（1936年～）は、飯田長姫高校が甲子園初出場で初優勝したときの投手で、“小さな大投手”と呼ばれていました。

背景には見覚えがある市営球場の一塁側ベンチの後方の「土手」が映っています。

多分、実家に下宿していた下宿生が撮った写真で、その下宿生の友人が野球班にいたからと思います。その友人とは前列一番左の山本大吉郎さん（54期）、木村監督の右の吉本幹男さん（54期）で、我が家に遊びにきていました。そのお二人が、優勝旗を持った小林弓右司さん（55期）と映っています。当時はあちこちで選抜大会が開催されていたと小林さんから聞きました。

この市営球場は時々、夕方の練習で利用しました。

校庭のグラウンドは狭かったので色々工夫して練習しましたが、試合の勝敗を分けることが多い守備の連携プレーの練習が満足に出きませんでした。しかし、市営球場では、走者一塁で右中間へのヒットが飛んだ場面は、捕球した外野手はバックホームなのか打者走者が二塁を狙ってきたら 8-4-6 か 9-4-6 若しくは 8-6 か 9-6 で二塁に送球するかなど色々な場面があり、カットに入る野手が一直線に入るようにするための位置取りと周りの野手の

指示など実践的な練習ができ、不安なく試合に臨めたという思いが残っています。
当時の外野は芝生ではなく、くるぶしが隠れる以上に伸びた雑草でした。このために、練習後に練習開始前よりボールが不足していたら、ライト線からレフト方向に一列に並んでボール探しをしたものでした。現在は、この外野の雑草は跡形も無くなったようですね。
また、３年の時の夏の大会前の合宿期間中は夕方の練習で何回か市営球場を利用しました。合宿期間中は明大の現役生二人にコーチに来て貰っていて、その一人は後に読売ジァイアンツに入団した高田繁さん（1945 年～）でした。高田コーチのノックには、打球の速さ、キャッチャーフライの高さに格別のものがありました。高田コーチに参加してもらって全員で一塁ラインに並んでレフト方向まで競争した記憶がよみがえります。足の速さはさすがプロから注目されている選手と感嘆するほどで 20m 以上離されました。
春の東信大会は、市営球場の土手の周囲の桜が咲き始めた頃に始まり、５月の連休の葉桜の頃に決勝戦というスケジュールでした。葉桜の頃まで残りたいなと思ったものです。
１年生の時の東信大会の決勝戦は市営球場で開催され、上田千曲高校と対戦し２対０で優勝し、長野で開催された北信越５県の大会に出場しました。この決勝戦のバッテリーは上田千曲が柳沢－田村、上田は竹内－田村で、上田千曲の田村は、次兄であったので鮮明に覚えています。
北信越５県の大会では、初戦の準決勝で優勝校の北陸高校（福井県）と対戦し３対２で惜敗し、春の甲子園の選抜大会に出場した金沢高校（石川県）とは対戦できなかったのが悔しい思い出です。
３年の時は　春の大会で早々に１回戦で佐久高校(現在の佐久長聖高校)に７対５で敗退してしまい、夏は小諸市営球場で予選１回戦が始まり、その後は長野に移ったので、公式の大会では残念ながら上田市営球場での試合が無かったのが残念です。
（2022 年 9 月 8 日記）

以上